

広報チームが行く！



ダム建設予定地とトンネル調査の巻 ～ 台形CSGダムと横坑を学ぶ ～



Vol.01(2020/08/20)



国土交通省 東北地方整備局
鳴瀬川総合開発工事事務所

広報チームは、鳴瀬川総合開発事業及び関連する地域の情報を様々なメディアを活用し「親しみやすく」「わかりやすく」広報する事を目的に令和2年6月に鳴瀬川総合開発工事事務所の職員で結成したチームです。

“かみ～ご”と一緒にダム建設予定地をレポート



鳴瀬川総合開発事業は、宮城県加美郡加美町に「鳴瀬川ダム※の建設」と「漆沢ダムの治水専用化」を行う事業です。

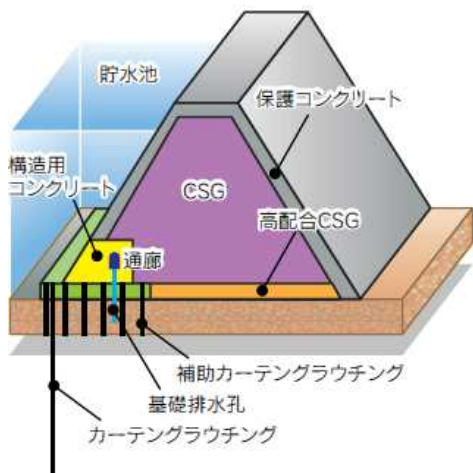
気温35℃の酷暑の中、鳴瀬川ダム建設予定地の様子を加美町の公認キャラクターかみ～ごと一緒に取材してきました。火伏の虎“かみ～ご”も、さすがに暑い？ それでは、取材結果をレポします♪

※ダム名称について

鳴瀬川総合開発事業で新設するダムの名称は、これまで、宮城県事業時代の「筒砂子（つつさご）ダム」を継承してきましたが、名称変更に対する地元要望および鳴瀬川流域全体の治水・利水に資する事業であること等を踏まえ、基本計画の作成に当たり、ダム名称を「筒砂子（つつさご）ダム」から「鳴瀬川（なるせがわ）ダム」に変更する予定です。

ダム建設予定地を訪れた“かみ～ご”

鳴瀬川ダム建設予定地に到着。
現在、調査・設計を行っている段階のため、建設予定地には何もありませんが、ここに、ダム高107.5m、総貯水容量45,600千m³の多目的ダム（洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい、発電）が建設されます。



▽完成後のダム高（計画）

ダムが出来るのが楽しみだ～ご～〇

鳴瀬川ダムのダム形式は、台形CSGダムです。台形CSGダムは、安定性に優れた「台形ダム」と「CSG(Cemented Sand and Gravel)工法」の両方の特徴をあわせ持つ新形式のダムです。

CSG工法とは、母材山から母材となる岩石を採取し、セメントと水を混合したCSG材によりダムを造る工法です。

この扉は何？

これは、「調査横坑」と呼ばれる基礎地盤の状況を直接調査するために掘られたトンネルです。
かみ〜ごも興味津々。



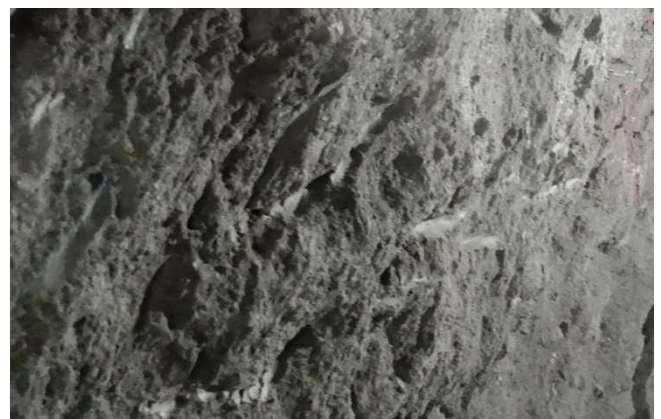
この調査横坑の大きさは、高さ2.0m、幅1.4m、深さ40mです。
調査横行の中は、真っ暗で、ひんやり*
調査横坑の中は16℃。外気温が35℃だったので19℃も差があります。



調査横坑の説明をする調査・設計担当者

基礎地盤の状況は、実際に目で見て確認するのが最も確実です。調査横坑の中では、岩盤の観察のほか、岩盤の試験、材料の採取などを行います。

鳴瀬川ダムの基礎岩盤となる、火山礫凝灰岩と言う岩盤です。この上に100mを超えるダムが建設されても大丈夫な強度をもった岩盤です。



今回は、鳴瀬川ダムの建設予定地に取材に行きました。これからもいろんなところに調査（取材）に行き、事務所ホームページ、twitter等で広報していきます☆

twitter

